

中部地域 包括支援センター	主題	高齢者の引越しに係わる実態把握調査
アンケート調査	副題	～高齢者の心身機能への影響
聞き取り調査	事業所	東久留米市中部地域包括支援センター
研究期間	1ヶ月	

発表者：中條 りう	
共同研究者：岩澤 美知代・柿木 加枝・吉田 ミイ	
TEL：042-470-8186	E-mail：
FAX：042-470-8188	URL：

今回発表の事業所 やサービスの紹介	東久留米市からの委託事業で、概ね65才以上の高齢者の総合相談・介護予防・権利擁護・包括的継続的マネジメント事業等を行っています。担当地域の人口は40,788人、高齢化率22.9%、後期高齢者割合が10.5%で、介護保険施設や居宅サービスの事業所が最も多い地域となっています。
----------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>H20年に南町地区の75才以上の独居・二人世帯を対象に、144名の方の「あんしん生活調査」を実施。</p> <p>その結果、支援必要な方が0.7%、近隣との交流がなく、閉じこもり傾向になる人、健康不安を持っている人等、将来的にリスクありと思われる方が3.5%であった。</p> <p>今回、この地区にある都営住宅の建て替えて、一部の世帯が転居となったが、高齢者の転居理由の第二位に挙げられている。望んでの転居ではなく、仕方なしに転居した人では、転居後の生活への適応に問題が生じる可能性があるとも言われおり、実際、地域での相談や実態把握する中で、引越しによる心身機能の変化を実感している。</p>	<p>《研究の目標と期待する効果》</p> <p><u>研究の目標</u></p> <p>転居は誰にとってもストレスの多い出来ごとであり、転居を契機として心身の不調を訴える人も少なくない中で、早期に体調・心身の変化を見つけ、早い段階でフォロー出来る。</p> <p>また、どのような転居であればストレスが少なく、その後の適応がうまくいくのかを明らかにし、今後も続く建て替えによる転居に役立てる事が出来る。</p> <p><u>期待する成果</u></p> <p>高齢者の転居（特に、仕方のない転居）は、リスクが高いと言われている中、早期に体調・心身の変化を見つけ、リスクを低減できるよう早い段階でフォローする。</p> <p>また、今後も建て替えによる転居が予定されているため、課題を明らかにし対応を検討出来る。</p>
---	--

《具体的な取り組みの内容》

南町都営住宅の移転後、個別訪問・面談による聞き取り調査を実施。

当初は自治会の協力のもと、全世帯にアンケート用紙を配布し65才以上の方に回答・聞き取り調査予定であったが、住民から自治会の方に「個人情報だから」と反対の声が上がり、調査方法を下記のように変更。

【対象者・状態】

- ・ケアマネ・民生委員・自治会長の協力のもと、聞き取り調査に承諾してくれた方
- ・[要介護] の認定を受けている人…4名
- ・「要支援」の認定を受けている人…4名
- ・自立の人…6名
- ・合計14名（男性7名・女性7名）

【訪問面接・聞き取り項目】

- ・環境について
- ・健康について
- ・心理面について

上記の状態別に、各項目に沿って聞き取りを実施。最後に、今回の引越しでどのような支援があれば良いと思ったかを伺い、今後の引越し支援の資料とする。

《取り組みの結果と評価》

【集計方法】

調査項目毎に、点数化して集計。
変わらない…0ポイント
良い変化…プラス1ポイント
悪い変化…マイナス1ポイント

【結果】

・外出の機会…調査前はエレベーター設置により外出し易くなると予想していたが、基本的には健康のために階段を使い、大きな変化はなかった。「要介護」の方のみ、若干外出機会が増えた。
・家事変化…設備が良くなり使いやすい。「要介護」の方でも、ボタンを押すだけでお湯が出せて楽になった反面、「要支援」の方は設備が使いこなせない等でマイナスとなった。
・趣味変化…「要支援」の方は、疲れが残っており、「自立」「要介護」の方は、片付けが終わっていない等でマイナスとなった。
・地域関係…同じ敷地内での転居のため、大きな変化はない
・家族関係…予想外のプラス回答で、引越しを機に高齢者の状態の変化に気付き、家族の関わりが強くなった。
・疲労感…「要支援」の方が大きくマイナス回答となり、動けるので、つい働きすぎて疲労が回復していない。
・食欲の変化…健康のために食べているとの回答の中で、「要介護」の方は整った環境の中で食欲が増している。
・引越しへの期待感…「要支援」の方が体力不安からマイナス回答であり、「要介護」の方は、設備の整った環境への期待感が高くなっている。
・準備・片づけ…「要介護」の方は、この期間は落ち着かないためマイナスとなり、「要支援」の方は体力的に大変さを感じ、マイナスとなっている。
・引越し後の心境…設備の整っている環境や、引越しによる不用品の整理が出来、気分がさっぱりしたと、プラス回答であったのに対し、「要支援」の方は、疲労と新しい設備を使いこなすことに苦勞し、マイナス回答となっている。
・引越してみても、どのような支援があれば良かったか…整理・片づけ36%で、書類の手続きでは何力所も回りタクシーを利用した為、経済的・身体的にも大変だったと回答されたのが要支援の人であった。
自立・介護の人は早い段階から準備をしたので特に無いと回答。

【評価】

元気な人にはなんでもない事でも、要支援の人にとっては大変な事で、疲労の回復力が遅いことが分かり、それが生活全般に影響を及ぼしていることが明らかになった。また、今回の調査で、緊急支援を行ない、介護サービスの対象にならない大掃除を行なってから、介護サービスに繋げることができ、早い段階でのフォローができた。

《提案と発信》

軽度者への訪問介護の生活援助を、介護保険から外すという議論が出ているが、今回の調査結果から、軽度者への生活援助は必要であり、在宅で安心して、安定した生活を送るには、必要なサービスであると思われる。

【メモ欄】 追加資料 パワーポイント資料

